

¥300  
割引券

限定サービス！  
ステーションまで  
お持ち下さい

## e レンタルサイクルポタリング首里

住所：那覇市首里当蔵町 2-13

TEL 098-963-9294

FAX 098-963-9296

URL <http://pottering-shuri.net/>

E-mail [info@pottering-shuri.net](mailto:info@pottering-shuri.net)

営業時間：9:30 ～ 18:30(受付締切 17:30)

電動アシスト自転車で楽・楽・スイ・スイ

# 琉球首里のパワー・謎・風水スポット を巡るマップ

地元ならではの穴場スポットを  
2時間、3時間コースで  
用意しました！

## スポットの説明とコース紹介

パワースポット

謎のスポット

風水を見るスポット

琉球首里パワースポットを巡るコース 所要時間：約2時間

琉球首里のパワー・謎・風水スポットを巡るコース 所要時間：約3時間

●園比屋武御嶽石門(首里城内)  
旅の道中の安全と国の安寧をもたらしたウタキイシジョー

●龍樋(首里城内)  
スィグスク台地の地下に結集した水の  
パワーが溢れる、  
嘗ての姿のまま今もパワーは滾々と  
生きる

●広福門前広場展望台(首里城内)  
祖宗山(弁ヶ嶽)から発する白虎(龍  
脈)が虎瀬山・西森を流れ、明堂(首  
里城)の気を高める

●真玉杜御嶽洞穴  
(首里城内)  
幼い王女の無念の魂  
が宿るガマ、その岩  
下には悲劇のクダ  
クスク

●西のアザナ展望台(首里城内)  
那覇沿岸、水辺線に慶良間諸島浮  
かび、その彼方に中国崑崙山(こん  
ろんさん)からの龍脈を感じ、時に龍雲  
がたち上る

●玉陵  
母、オギヤカの永劫の呪いが込めら  
れた石陵、オギヤカはいずこヘナゾ  
の墓陵

●メズラ嶽(美連嶽)  
神々しく鎮座するマカンアンシタ  
リー以下ノロたち、国を祭るミンチ  
ラダキ

●指司笠樋川  
干ばつで苦しむ人  
々の為、掘り当てた  
王女サシカサアンジ  
ガナシー魂の水

●仙人大ガジュマル  
天上界神つたい地上界へ降臨する  
霊木、妖怪キジムナー宿ると伝わる

●安谷川御嶽洞穴  
ウタキのご神体、  
霊力結集するイビ、  
太陽(テラ)いずる  
ガマ

●アスイ森  
神に告げられた駿馬の魂が  
人々の暮らしに活気をもたらす

●弁ヶ嶽  
ここ祖宗山から発す  
る二つの龍脈(白虎  
・青龍)、尾根には  
北に真嘉比川、南に  
安里川が流れ都は安泰し、神住む久  
高島へ通す

●赤田首里殿内跡  
神々しく鎮座するスイアンシタリー  
以下ノロたちが国を祭る、みるくウ  
ンケーが子供たちに力を与える

●御茶御殿の石獅子  
この獅子は火難をもたらすとされ  
るヤエセダケ(八重瀬町富盛)に向  
かい、難を払う力を持つ

●崎山樋川  
大きな力をもた  
らすとされる霊  
水、巳の年の新  
年に国王へ捧げ  
られる

●金城町の大アカギ  
この森の主であるか  
のような巨木、あの  
戦世の悲劇をも生  
き抜いた神々しい  
霊木の圧倒的パワー

## 電動アシスト自転車 レンタル開始！

～「旅チャリ」で巡る首里の町散策～

e レンタルサイクル  
ポタリング首里

料金 ◆2時間まで 800 円 ◆4時間まで 1,500 円  
◆終日(4時間以上)は 2,000 円 ※左上の割引券もご使用下さい！

NPO 法人首里まちづくり研究会は、株式会社 JTB 沖縄と提携を結び、那覇市の「ふるさと雇用再生特別交付金事業」の一環として旅チャリで巡る首里の町散策事業、「電動アシスト付自転車のレンタル事業(e レンタルサイクル ポタリング首里)」を8月からスタートしました。首里城周辺の風情有る町並みを眺めながらの新しい観光ツールとして期待される「旅チャリ」で、散策コースの提案や道路整備にも取り組み、歩行者に優しいまちづくりに力をいれていく方針です。



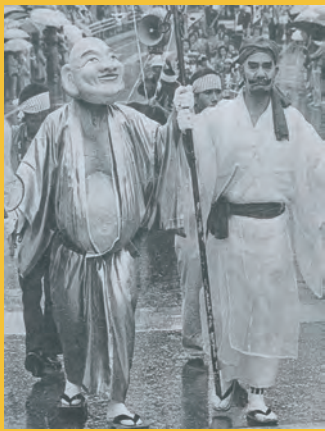
▲みるく様の周りには、いつも笑顔があふれる。  
子供の無病息災を願い団扇で扇ぐ光景が微笑ましい



▲現在のみるく様は2代目。  
耐久性を考えニス塗り、足下も草履から皮靴に



▲復興後のみるくスネーイ



▲首里文化祭でスネーイするみるく。  
面と胴は、故佐久本政敦氏から赤田町に寄贈された

## 赤田みるくウンケーとは

赤田みるくウンケーは、平和と豊年を招き寄せるみるく(弥勒)をウンケー(御迎え)、人々の無病息災と家庭円満を祈願する行事です。旧暦七月十六日※、赤田クラブ内にある弥勒御堂に奉納されている「みるく」の面と胴をまとった人を先頭にお供がつき、そのあとを路次楽(るじがく)とミルクングワ(みるくの子どもたち)が続いて、町内を約1時間スネーイ(行列)します。行列の人数は約100名にもなります。スネーイのあとは赤田クラブ内のバンク(仮設舞台)で、みるくに感謝する奉納芸能を行います。

※現在は旧暦のお盆に近い日曜日に開催しています。

## 赤田みるくウンケーの由来

今から三百年ほど前、求道(グドー)長老という僧侶が時の中国に渡り「弥勒」の掛軸を持ち帰り、首里殿内に奉りました。赤田の村人たちはありがたい掛軸をいただいたことを喜び、毎年七月にお祭りを行いました。

ある年、首里にチュラガサー(天然痘)やイリガサー(はしか)が流行し、多くの患者が出たのですが、赤田の村では重い患者が出なかったことから「みるく様のおかげである」と、ますます厚い信仰を寄せるようになりました。その後、嘉手苅のウスメーという絵の上手な人が、みるくの掛け軸の絵像から立体的な張り子を仕立て、みるく行列を行うようになったと考えられています。

## 赤田みるくウンケーの路次楽

路次楽(るじがく)とは中国から伝わった道中楽で、哨呐(すおな)という管楽器を主奏とし、太鼓や銅鑼を打ち鳴らしながら練り歩く琉球の中国音楽です。主に王や高官たちの行列の際に伴奏を行う吹奏楽隊であったと考えられます。

赤田のみるくに「路次楽」が加わったのは、一八〇〇年代中期ごろと推定されます。現在もカニ(銅鑼)を先頭に、ピーラルラー(哨呐)、クー(小太鼓)、チャンチャン(スィシン)が揃い、「路次楽の一段」と「赤田首里殿内」を奏で、みるくの行列ににぎやかな印象を与えます。ンカジ(ムカデ)旗を持った子どもたちがスネーイに華を添えます。

## 「赤田首里殿内」

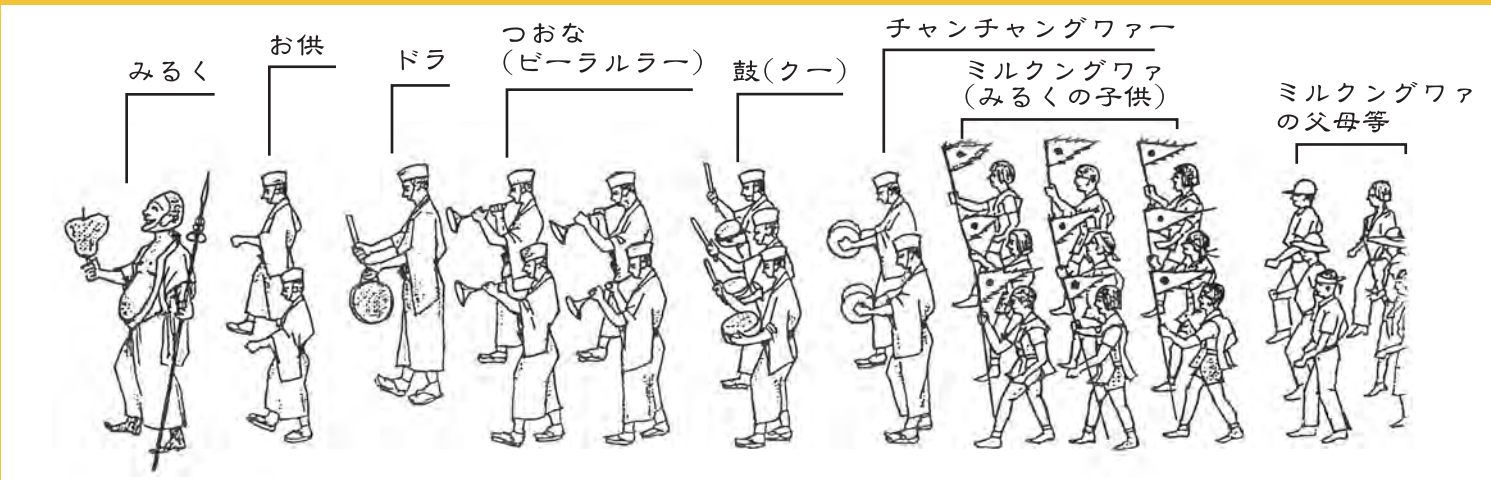
一、赤田首里殿内(あかたすんどんち)  
黄金灯籠(くがにとろう)をきざいていうりが、明(あ)かがりば  
弥勒(みるく)御迎え(うんけ)

二、大国(たいくく)からみるく  
沖繩(うちなわ)にいまち  
うかぎぶしやみそり  
弥勒世界報(みるくゆがふ)

三、シーヤブー シーヤブー  
ミーンシメー ミーンシメー  
ヒージントー ヒージントー  
イーユヌミー イーユヌミー

四、赤田の首里殿内に黄金の燈籠をうつして  
それが輝くと、弥勒様のお迎えだ  
大国から弥勒様が沖繩にいらしていつまでもおとまり下さい  
そうすれば弥勒世界報です

五、赤田の首里殿内に黄金の燈籠をうつして  
それが輝くと、弥勒様のお迎えだ  
大国から弥勒様が沖繩にいらしていつまでもおとまり下さい  
そうすれば弥勒世界報です



間取り調査から描き起こした行列の図 絵：友寄賢吉さん「赤田みるく 復興の記録」より